



CHAPTER 2

Cisco Unity Connection での不正通話の防止

この章では、あらゆる組織においてセキュリティ上の問題となる可能性がある、不正通話について説明します。また、予防措置を講じるのに役立つ情報や、不正通話を防止するためのベストプラクティスも紹介します。

次の項を参照してください。

- 「規制テーブルを使用した Cisco Unity Connection での不正通話の防止」(P.2-1)
- 「コレクトコールオプションの制限」(P.2-2)

規制テーブルを使用した Cisco Unity Connection での不正通話の防止

不正通話とは、組織の費用負担で、組織のポリシーに違反して行われる、すべての長距離通話のことです。Cisco Unity Connection には、不正通話を防止するために使用できる規制テーブルが用意されています。規制テーブルでは、着信転送、メッセージ通知、および Connection のその他の機能に使用できる電話番号を制御します。各サービスクラスにいくつかの規制テーブルが関連付けられており、必要に応じて規制テーブルを追加することもできます。デフォルトでは、規制テーブルは、トランクアクセスコード 9 のダイヤルプランの、基本的な不正通話規制用に設定されています。使用するダイヤルプランおよび国際通話のプレフィックスに合わせて、規制テーブルを調整する必要があります。

ベストプラクティス

ユーザ、管理者、および Cisco Unity Connection メールボックスへのアクセスを不正に取得した外部発信者による不正通話を防ぐには、次の変更を行います。

- すべての規制テーブルを、国際通話のオペレータへの呼び出しをブロックするように設定します。この設定を行うと、内線から国際通話のオペレータにダイヤルしたり、国際通話のオペレータからの着信転送を設定したりして国際通話を行うことができなくなります。たとえば、トランクアクセスコード 9 の後に 00 をダイヤルして国際通話のオペレータを呼び出すことができなくなります。
- Connection が 2 つの電話システムと連動している場合は、両方の電話システムとの連動用に、該当するトランクアクセスコードと一致する規制テーブルのパターンを追加します。たとえば、1 つの電話システム連動用のトランクアクセスコードが 99 の場合に、ダイヤルパターン 900 を規制するには、パターン 99900 も規制します。トランクアクセスコードを含むパターンが規制されると、最初にどちらかのトランクにアクセスしてから国際通話のオペレータにダイヤルして規制テーブルをバイパスする試みがブロックされます。

- 仕事で国際通話番号にアクセスする必要がある人については、国際通話番号へのすべての呼び出しをブロックするように、規制テーブルを設定します。これにより、その規制テーブルと関連付けられている Connection メールボックスへのアクセスが許可されている人が、その内線から国際通話番号への着信転送やファクス配信を設定できなくなります。
- 国内の長距離通話について、特定の市外局番への通話だけを許可するか、またはすべて禁止するように、規制テーブルを設定します。これにより、その規制テーブルと関連付けられている Connection メールボックスへのアクセスが許可されている人が、その内線から長距離通話の番号への着信転送やファクス配信を設定できなくなります。
- システム転送に使用できる番号を規制します。システム転送は、発信者がある番号をダイヤルしてから、指定した別の番号に転送できる機能です。たとえば、発信者がロビーや会議室の電話に通話を転送することはできるが、国際通話のオペレータや、長距離通話の番号への転送はできないように、規制テーブルを設定します。

規制テーブルの仕組みとその設定方法の詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 9.x) の「[Managing Restriction Tables in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/administration/guide/9xcucsagx.html から入手可能です。

コレクトコールオプションの制限

必要に応じて、着信電話回線でのコレクトコールオプションを制限するように、電話会社と取り決めることを推奨します。